様式3

令和　7　年度　学校評価書　（ 実施段階 ）

学校番号 80

福岡県立　朝倉　高等学校（定時制）

スクール・ミッション （本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像）	「積極的にチャレンジし、自らの将来を切り拓く人材を育成する夜間定時制高校」 保護者や地域と連携しながら、生徒一人一人の個性に沿った教育活動を展開し、地域から信頼される人材を育成します。	
スクール・ポリシー （三つの方針）	グラデュエーション・ポリシー （育成を目指す資質・能力に関する方針）	・社会的自立の基礎的な学力、体力、コミュニケーション力、豊かな心の育成 ・自他の理解を深め、互いの個性と人権を尊重しあう態度の育成 ・協働の喜びや達成感の醸成を行い、自己肯定感を高め、地域に信頼され、地域を支える人材の育成
	カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成及び実施に関する方針）	・中学校段階の学び直しを取り入れ、丁寧な指導を実施 ・教員の指導は生徒の安全を守る最低限とし、生徒が主体的に自分で考え、行動できるように教育活動全体を通じて教員がサポート ・定期的な進路調査や進路ガイダンスを実施し、資格（コンピューター関連）取得を目指したカリキュラムを設定 ・3年間でも卒業できるようにカリキュラムを設定し、個に応じた学びを支援
	アドミッション・ポリシー （入学者の受け入れに関する方針）	・自らの可能性を信じ、努力し続ける強い意志を持ち、目標実現に向けて積極的に挑戦しようとする人 ・物事の本質を見極め、自ら主体的に判断し選択する力を身につけ、決まりを守って正しい行動ができる人

学校運営計画（4月）

学校運営方針			評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
全職員で情報を共有することができ、スムーズな学校運営、及び生徒へのきめ細やかな指導ができた。生徒の出席率は88.9%、授業評価アンケート結果の授業満足度は3．4と良好であった。 昨年度の課題としては、以下の点が挙げられる。 1　不登校生徒に対する修学支援と学習機会の確保 2　多様な課題や特性を有している生徒や保護者への支援 3　4年間を見通した生徒の「自信と志」を育成する系統的なキャリア教育 4　本校の教育内容・活動に関する地域への積極的な広報活動	確かな学力とコミュニケーション能力の向上を目指した授業づくり	・生徒個々の学力を把握し、段階的に基礎学力の習熟を図る。遠隔授業や通信教育を導入し、不登校生徒に対する修学支援と学習機会の確保を行う。 ・ICT機器・一人1台タブレットを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を推進し、思考力・判断力・表現力を育成する。	A
	自信と志を育成するキャリア教育の推進	・ハローワークと連携しながら職場開拓を行い、生徒の就学と就業を積極的に支援する。進路実現のための学力養成を組織的に行う。 ・定期的な進路調査や学校行事等によって、自己の進路に希望を持たせる指導を行い、進路目標実現に向けた積極的な取り組みを促す。	
	生徒理解に努め、情報を共有し、「ほめて、伸ばす」指導により、生徒の可能性を拡大する生徒指導体制の充実	・生徒会活動に積極的に関わらせるとともに、様々な取り組みへのチャレンジを促す。 ・生徒が安心・安全に過ごせる校内環境を整備し、生徒の自己実現を積極的に支援する。	
	広報活動の充実と外部機関との連携による情報の収集	・学校案内、朝倉通信、HPの作成により、学校内外へ生徒の活躍を発信する。 ・定期的な親の会、中学校等訪問を通じ、生徒の情報を収集し、共有する。	
	「チーム朝高定時」としての指導体制の強化	・定期的な情報交換会を行い、情報を共有し、生徒理解を深める。 ・職員研修会や外部機関との連携により、教育相談力・生徒指導力を向上させる。	

自己評価

評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート（外部アンケート等）の結果等	評価（3月）			結果の考察と次年度の課題	学校関係者評価 項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	指導と評価の一体化を図る。	年間学習指導計画を利用し、PDCAサイクルを回すことで指導改善を絶えず行う。	【授業評価アンケート】 「授業の受け方を工夫したり、定期考査へ向けての学習方法を改善することができた」と回答した生徒80.5% ・「授業で努力したことを認めてくれる」と回答した生徒88.2%	B	A	A	・他教科の授業を参観し、授業の雰囲気や教える時間、考えさせる時間の配分などを参考に指導改善を行っている。各教科一人の教員のため、具体的な指導方法について相談したり、助言をもらうことが難しいことが課題である。 ・学習に対して苦手意識を持っている生徒が多い中、80%以上の生徒が学習方法を改善できた。次年度はこの数値がさらに向上するように、各教科から具体的な学習方法を授業の中で適宜提案し、学習改善に対する生徒の意識を高めたい。	A	・定時制課程の生徒の多くが個々の複雑な事情を抱えている。そのようななかで、出席率が90%に近く、毎日落ちついた雰囲気で授業が展開されており、生徒の授業満足度が高いことは、先生方のきめ細やかな配慮と努力の賜物である。 ・教室に入れないが、学習意欲はある生徒に対して、遠隔授業や通信教育によって学習機会を保障できたのは、定時制課程が期待されている社会的な役割を果たす上で画期的な取り組みであった。今年の反省点を生かして改善し、次年度も取り組んでいって欲しい。
		学習評価の方針を事前に生徒と共有するとともに、フィードバックする際にも改めて生徒と共有することで、生徒の学習改善を図る。		A					
		観点別学習状況の評価や評定では示しきれない生徒一人一人のよい点や可能性、進捗の状況などを「個人内評価」として実施し、生徒が学習したことの意義や価値を実感できるよう日々の教育活動の中で生徒に伝える。		A					
	全員の進級、卒業を目指す。	年間平均出席率90%以上を目指し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。	・出席率　11月末までの全校出席率88.4% 【補講対象者への実施後アンケート】「進級や卒業への意欲が高まった」と回答した生徒80.0% ・遠隔授業・通信教育の導入件数1件	B	B		・年間出席率が90%を下回ったが、高い水準を維持できている。特定の生徒が欠席を重ねているため、必要があればSCやSSWとも連携して指導をしていく必要がある。 ・補講では基礎学力を確保することはもちろんのことであるが、進級・卒業を目指す態度を育てるための対話をこれまで以上に重視して次年度も補講を実施していく。 ・今年度初めて遠隔授業・通信教育を実施したため、実施規定を見直し、より良い体制で次年度実施する。		
		学期ごとに補講を実施し、基礎学力の確保及び進級・卒業を目指す態度を育てる。		B					
		遠隔授業や通信教育を導入し、不登校生徒に対する修学支援と学習機会の確保を行う。		A					
	生徒の満足度の高い授業を実施する。	楽しく学びがいのある授業を実施することで、良好な人間関係を形成し、学習意欲を高める。	【授業評価アンケート】 「前向きな気持ちで授業に参加している」と回答した生徒89.7% ・「わかった・できたと感じる」と回答した生徒85.1%	A	A	A	・「前向きな気持ちで授業に参加している」と回答した生徒と「わかった・できたと感じる」生徒の割合には差が見られる。不得意科目についてはがんばって授業に参加しているが、わかった、と実感できていない生徒がいることが考えられる。授業の中での個別指導にも限りがあるため、次年度はグループ学習など生徒が互いに助け合える場面を適宜設定していくことが必要である。		
		生徒の学びに寄り添いながら「わかった、できた」と実感できる授業を実施し、学びに向かう態度を育み、基礎学力の定着を図る。		A					
		ICT機器・一人1台タブレットの利用や、主体的・対話的で深い学びにより、生徒が互いに助け合い、課題を解決しようとする態度を育成する。		B					
	生徒理解に努め、情報を共有し、生徒が安心して学べる授業環境を整備する。	家庭訪問、中学校訪問・前籍校訪問を実施し、家庭環境や生育歴及び学習に対する取り組み方や集団生活に関する情報を収集し、指導に生かしていく。	・中学校訪問・前籍校訪問件数15件 ・生徒情報交換会の実施回数は11月末日時点で27回	A	A		・家庭訪問、中学校訪問、前籍校訪問により様々な情報を収集・共有するとともに、生徒の基礎学力についても各教科で把握・共有し、生徒の実態に応じた指導に役立てている。このような取り組みが前項目の授業評価アンケートの結果に結びついている。次年度も様々な情報を共有するだけでなく、指導に役立て生徒が安心して学ぶことができる授業環境を整備していく。		
		新入生基礎学力観察週間を年度の始めに実施し、個々の学力を把握・共有し、生徒の実態に応じた指導に努める。		A					
		特別支援教育の視点に立ち、うまくいった指導方法とうまくいかなかった指導方法を情報交換会で共有し、様々な生徒の特性に対応した授業を実施する。		B					

生徒指導部	集団の一員としての自覚を育てるための生徒会活動の活性化。。	生徒会役員会の定例化。	【行事後アンケート】 新入生歓迎遠足の距離 「ちょうど良かった」45.5% 「近すぎた」36.4% 文化鑑賞会 「大変よかった」56.7% 「よかった」26.7%	A	A	A	・生徒会役員会は定期的に行い、自主的に学校行事の企画・運営を行わせることができた。ただし、生徒会担当の教員に任せきりになり負担が大きかった。次年度は他の職員も組織的に生徒会活動に関わっていくようにしていきたい。 ・新入生歓迎遠足と文化鑑賞会後の生徒アンケートの結果を、次年度の計画に反映していきたい。	A	・生徒会を中心に、生徒が自主的に学校行事を企画・運営して楽しめていることは、生徒自身の充実感や達成感、自己肯定感を高めることに繋がっている。次年度も、生徒の自主性を最大限に引き出して生徒個々の人間的な成長を実現して欲しい。 ・他人との人間関係の構築が苦手な生徒が少なくない中、クラス経営やいじめ対応は大変であると思う。それでも、個々の生徒の背景を踏まえつつ、保護者とも密に連携しながら、丁寧な対応をお願いしたい。
		行事等の生徒会への適切な役割分担と職員による評価・声かけ。		B					
		アンケート調査による生徒の意見を反映した行事計画。		A					
	積極的な生徒との関係づくりと生徒指導の早めの取り組み。	日頃からの生徒への積極的な声かけ。	【学校生活アンケート】 アンケートへの記載事項により、不審者による登下校時の声かけ事案を把握することができた。	A	A		・職員による積極的な生徒への声かけが日常的に行われていた。また、生徒に寄り添う姿勢で、生徒支援の観点から生徒との関わりを築いていきたい。 ・学校生活アンケートは定期的に実施することができた。不審者による女子生徒への声掛け事案に関しては、全校生徒に注意喚起を行った。 ・生徒情報交換会に欠席した職員との情報共有を確実に行うことが次年度の課題である。		
		家庭訪問・電話連絡等による保護者との連携。		A					
		生徒情報交換会の一層の充実。		A					
	秩序ある学校づくりと遵法精神の育成や社会でのマナーの体得。	授業規律の徹底（授業は最大の生徒指導の場）。	交通安全教室　実施1回（10月） 登下校中の交通事故報告　0件	B	B		・授業や外部講師による講演の最中に、スマートフォンを扱っていたり、私語をしていたりする生徒がいるのは課題である。事前に担任等から意義を説明するなど、全ての職員が共通の認識を持ってこの課題に取り組んでいかなければならない。 ・現時点では登下校中の交通事故の報告は受けていない。 ・自転車通学届とヘルメット着用の確認が不十分であり、次年度の課題である。		
		交通安全教育・防災意識の向上教育等、安全指導の充実。		A					
		通学届の徹底・自転車保険の加入促進。		B					
	いじめを許さない集団づくりと環境整備、ネットトラブルの未然防止。	毎月のいじめに関するアンケートの実施。	【いじめアンケート】 ・アンケートへの記載により「いじめ見逃し0」に努めることができた。	A	A		・本年度はいじめ事案が4件発生した。その際は被害者および加害者の生徒から聞き取りを行い、被害者および加害者の保護者に連絡を行い、いじめに関する一連の対応を迅速に取ることができた。次年度も担任としっかりと連携を取り、対応していきたい。 ・いじめに関する職員の研修会は実施したが、ネット・パトロールは実施できなかった。		
		いじめに関する職員の研修会実施。		A					
		ネット・パトロールの活用。		C					
生徒指導部 保健課	生徒が心身ともに健康で安全な楽しい生活を自ら実践できるように支援する。	情報交換会で生徒の心身の健康面についての情報を提供し、全職員で共通理解を図る。	【保健アンケート】病気の既往歴・通院歴・平常時の状況を把握でき、全職員で共通理解し個々の教育活動に活かすことができた。 【給食アンケート】アレルギー等の把握が出来、給食の献立に反映することができた。	A	A	A	日常の生徒たちの行動・訴えをよく観察し、「いつもと違う」と感じたら、声をかけ、他の職員とも情報を共有して見守りを行うことができた。平素から生徒の「いつもと違う」点を敏感に感じとれるように職員全体でアンテナを高く保つようにする。また、生徒との会話については、丁寧に行っていきたい。SCと情報共有を密にして生徒に対応することができたので、来年度も継続していきたい。	A	・中学校等から情報を収集し、全職員で個々の生徒への観察や声かけを丁寧に行い、話を聴き、そうして集めた情報を共有しながら組織的に適切な配慮が行われている。特別な支援や合理的な配慮が必要な生徒は、これからもますます増加すると考えられるので、先生方にはそのような生徒への理解や配慮の仕方に関する研修を深めて欲しい。 ・多くの生徒が給食を楽しみにしており、毎日おいしく食べている。これも生徒の意見を取り入れたメニューを作成する等、先生方の指導の賜物である。定時制の生徒にとって、給食を通した食育指導は重要であるので、今後も更なる喫食率の向上に努めて欲しい。
		食中毒や感染症の予防・対策・事後措置を実施する。		A					
		食育指導を通して給食への関心を高めさせ、給食を通して「食べる」ことの幸せを体感させ、空腹の解消を図る。		A					
	生徒保健委員会活動を通して、保健委員一人ひとりが自覚と責任を持ち、生徒の主体的な活動となるようにする。	保健会筑後支部定時制部会では情報交換および有益な交流に努める。	【研修会参加アンケート】他校の生徒との研修課題を通しての交流で、他校の学校生活等を知り、見聞や自信を深めることができた。	A	B		保健委員会の地区研究発表、施設見学では、生徒たちが他校の生徒たちと積極的に交流することができた。テーブルマナー講習会では、マナーの獲得が生徒たちの自信と思い出になった。来年度は、SCによる、生徒のグループワークを採り入れた講演会を実施したい。また、性教育については、外部講師(八女公立病院　産科医長)による講演会を実施したい。		
		将来にわたり記憶に残るような体験的な研修の実施で卒業後の生活の充実につなげる。		A					
		生徒の実態に応じた講演会を実施する。		C					
	特別支援教育の推進を図る。	引継ぎシートを提出した生徒に関して、丁寧に適切な対応を行う。	中学校からの引き継ぎシート　3件 個別の指導計画作成　13件 個別の支援計画作成　10件	A	A		次年度は、中学校からの引き継ぎシートがある生徒については、全職員で共通理解を図り、今年度以上に個に応じた丁寧な支援や指導を行い、生徒の「困り感」をできるだけ小さいものにしていきたいと考えている。		
		当該生徒の学校生活の充実度の向上・「困り感」の早期発見に努める。		A					
		特別支援教育の研修会の内容を職員に還元し、合理的配慮・インクルーシブ教育において生徒個々に必要な特別支援教育の検討と充実を図る。		B					
進路指導部	ハローワークと連携しながら、生徒の就学と就業を積極的に支援する。	ハローワークと連携しながら就労を支援する。	生徒の就業率(アルバイト) 1年　47.6%、2年　75.0%、 3年　52.6%、4年　78.6% 職員による職場訪問実施　19件	A	A	B	・ハローワークと連携し、生徒の就業(アルバイト)を支援することができた。定時制の生徒にとって、授業前の時間にアルバイトに取り組むことは、社会人としての基礎力や人間性を育み、将来のキャリアを考える上で非常に有益な経験となる。次年度もハローワークと連携しながら、学業との両立に留意させつつ、生徒の就業支援についての指導を工夫・改善していきたい。	B	・生徒にアルバイトに取り組ませることは、職業観・勤労観や人間関係構築能力の育成、将来のキャリアの展望を描かせること等の上で大変意義深い。ただ学校での修業が最優先であるので、それを踏まえつつ無理のない指導をお願いしたい。 ・生徒のキャリア形成を促す取り組みを低学年時から段階を踏んで、組織的に行ってもらいたい。そのためには4年間を見通した進路指導計画を先生方で共有するとともに、生徒・保護者にも明示してもらいたい。
		職場訪問を行い、生徒就業状況を把握する。		A					
		定期的に就労状況を把握し、就労促進に役立てる。		B					
	キャリア教育を推進する。	外部講師や上級学校の担当者を招き、進路ガイダンスを年2回実施し、幅広く進路情報を提供する。	【進路ガイダンスアンケート】 「進路選択の参考になった」80% 【進路希望調査】 1,2,3年生を対象に1回実施し、生徒の希望を全職員で共有した。	A	B	B	・キャリア教育の推進として、外部講師や上級学校の担当者を招き、進路講演会及び進路ガイダンスを各1回実施し,生徒に進路に関する情報提供及び進路決定へ向けての意識づけを行うことができた。また進路希望調査も計画的に行うことができた。次年度は4年間の体系的なキャリア教育計画を作成し、進路希望調査を学期に1回年に3回取っていきたい。		
		定期的に進路希望調査を行い、生徒一人一人の進路実現に向けた組織的な指導に役立てる。		B					
		生徒一人一人の希望や能力に応じた資格・検定試験や模擬試験へのチャレンジを促す。		B					
	卒業予定者の進路希望実現へ向けて、最大限の支援をする。	ハローワークと連携し、個々に最適な就職を支援する。	【進路希望調査】 4年生に対し、詳細な進路希望調査を行い、後日個別面談を行い、進路実現へつなげた。 進路決定実現率90%	A	B		・就職および進学において卒業予定者に対して、ハローワークと連携し、進路希望実現へ向けて個別の支援を行い、進路実現につなげることができた。次年度は担当者だけではなく、組織的に支援する取り組みを推進していきたい。		
		進学希望者に対し、個別に応じた支援を行う。		B					
		進学希望者へ向けて各種奨学金等の案内を行う。		B					

進路指導部 企画研修課	職員研修を推進する。	全職員は指導目標をもって「授業公開週間」に臨み、研究協議では指導目標の達成状況について協議し、授業改善に生かす。	校内職員研修会　実施8回	B	B	B	・ICT支援員を講師に、年に1回ICT活用研修会実施したことで、授業でのタブレット端末の活用が更に進んだ。次年度は更に校内研修の充実を図りたい。 ・年に2回人権教育特設授業を行い、指導案の検討などの校内研修会を行った。次年度は研修会後の職員アンケートを実施し、職員研修会の企画や内容の充実に生かしていきたい。	B	・タブレット端末等のICT機器を活用した授業がよく工夫されていることが、「分かりやすさ」や生徒の高い学習意欲に繋がっている。次年度もICT活用研修会を充実させ、双方向型の、個別最適な学習を実現する授業を更に推進していって欲しい。 ・美術館実習や陶芸教室等、校外で多様な体験をする学校行事が企画・実施されていることは、生徒の社会性を育む上で大変意義深い。予算等厳しい条件もあるだろうが、安全に配慮しつつ、これからも創意工夫して生徒に幅広い経験を積ませてもらいたい。
		情報交換会や文書の回覧において、校外での研修で学んだことを報告し、全職員で共有する。		B					
		人権教育特設授業を充実させるため、校内研修を実施する。		B					
	生徒の健全な育成のために、地域、家庭との連携を図る。	出身中学校や関係機関・転編入生の前籍高校を1学期に訪問し、情報交換を行う。	【陶芸教室など体験型の校外研修の事後アンケート】 「地域文化への理解を深めることができた」 全くそう思う　36名 大体そう思う　20名 参加生徒69名中、56名(81.1%)の生徒が地域文化への理解を深めることができた。	B	B		・1学期に1年生の出身学校等への訪問を計画通りに行い、得られた情報をもとに円滑な新入生指導を実施することができた。次年度も計画的・組織的に全職員で取り組んでいきたい。 ・陶芸教室や上級学校見学を予定通りに実施し、地域文化への理解を深めさせたり、進路意識を高めさせたりすることができた。次年度は内容を更に充実させていきたい。 ・親の会を年8回実施し、学校の教育活動に対する保護者の理解を深め、連携を強化することができた。次年度は、今年度以上に幅広く保護者の参加を促していきたい。		
		陶芸教室など体験型の学習を実施し、地域文化への理解を深める。、		A	B				
		保護者会や親の会を活用し、保護者と連携する。		B					
	本校の教育活動の成果について、地域、家庭に積極的な広報活動を行う。	学校パンフレット、HPや朝倉通信、で学校内外へ生徒の活躍を発信する。	【魅力ある学校づくりに関するアンケート(保護者向け)】 広報誌「朝倉通信」について ほぼ毎号読む　60% ときどき目を通す　36.7%	A	A		・学校パンフレット・朝倉通信(年10回)を計画通りに作成し広報活動に役立てることができた。次年度は掲載する情報が更に充実するように、全職員からアイデアを募って作成していきたい。 ・2学期末に22校の中学校訪問を行い、定時制の現状と求める生徒像について広報活動を行った。また教務部と連携し、中学生の体験入学(学校見学)を受け入れ、個別に丁寧に対応することができた。この取り組みは、生徒の中途退学や転学防止の上でとても重要なので、次年度以降も継続していきたい。		
		中学校訪問を利用して広報活動を行う。		B					
		中学生の体験入学を随時受け入れる。		A					
人権教育	教育活動全体を通じて組織的に人権教育を推進する。	部落問題をはじめ様々な人権課題を学ぶ人権特設授業を充実させる。	人権教育特設授業 各学年実施2回	A	A	A	人権教育特設授業については、年々内容も充実し教材の系統化や開発も図られてきた。生徒一人一人が大切にされていると実感できる日常の人権教育をさらに充実させることで、人権問題を自分や仲間に関わる身近なものとして捉えさせていきたい。また、授業後の生徒・職員のアンケート実施、分析することで、特設授業の更なるブラッシュアップを図っていきたい。	A	・生徒が人権について学ぶことは、他人の大切さを学ぶとともに、自分が大切な存在であることを自覚することに繋がる。先生方自身の研修も深めながら、生徒の「気付き」を促すような人権教育の充実をお願いしたい。
		教科指導、生徒指導、進路指導等、日常の教育活動を通じて人権教育を充実させる。		A					
		生徒が人権問題を自分や仲間にかかわる身近なものとしてとらえることができる指導を行う。		B					
	全職員が人権教育についての理解を深める。	全職員で人権教育の研修に積極的に取り組む態勢を整える。	教員の校外研修会参加　延べ8回	B	B		人権教育に関する研修については、時間・内容等を精査しながら随時案内することができた。さらに職員の課題意識とつながる研修会内容を意識しながら、参加を促していきたい。		

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・生徒の授業満足度を更に高めるため、生徒の特性に対応した授業展開の工夫や、タブレット端末等のICT機器の活用等により、アクティブラーニング・双方向型の、個別最適な学習を実現する。

・遠隔授業・通信教育を更に充実させ、学習意欲はありながらも教室に入れない生徒に学習の機会を保障し、進級・卒業に向けた希望を持たせる。

・学校行事等を通して、生徒の人間関係構築能力を育むとともに、人間関係のトラブルに起因するいじめを見逃さないように努め、迅速な初期対応を行う。

・校外での体験的な研修や学校行事を創意工夫することで、生徒に多様な経験を積ませ、社会性を育む。

・4年間を見通した体系的な進路指導計画を策定し、組織的な進路指導を全職員で行うことで、生徒のキャリア意識を段階的に育む。

・校外の人権研修を通じて得られた成果を共有することで、人権教育特設授業を更に充実・発展させ、生徒に「他人の大切さ」とともに「自分の大切さ」に気付かせるとともに、人権感覚を高めさせる。

学校関係者評価	
評価（総合）	自己評価は A：適切である B：概ね適切である C：やや適切でない D：不適切である
A	
評価項目以外のものに関する意見	
保護者の更なる学校理解のために、一斉配信メールや学校通信の内容の更なる充実や、保護者も参加できる学校行事の企画をお願いしたい。	